

研究評価委員会分科会の各委員からの所見について(事後評価)

課題名「室内化学物質濃度の評価及び低減技術」

1. 主な所見

所見 : 広範な内容のものをよくまとめたと思います。他機関との連携、研究発表とも、よくやられていると評価します。学術的な研究成果としてはこれで十分と言ってもよいでしょうが、社会への還元ということを考えた場合、この先の段階でどうするのかも知りたいところです。

所見 : 初期の目標以上に成果が得られたものと評価する。特に室内での小屋裏等からの空気移動と、汚染物質との関わりなどは本研究で始めて立証された面白い結果である。わが国の住宅の暖冷房水準は先進諸国に比べて著しく遅れていることから、換気システムのセントラル化をトリガーに住宅におけるセントラル冷暖房システム普及に向けて本研究成果の活用を期待したい。

所見 : 中間評価は、盛りだくさんな研究課題にその達成度が若干心配しましたが、十分な研究成果が得られたものと評価いたします。大変多くの口頭発表をされておられますが、ぜひ原著論文として投稿されるよう期待します。

所見 : 有用な成果は得られたが、研究目的として書かれた言葉と成果の内容に若干のずれがあるように思う。現在のニーズに合った研究であり成果も得られたと思う。研究目的にある「精度向上」という言葉に対して、おおまかでも良いので、「従来の精度は 程度であったが、今回の研究成果の応用により 程度の精度を得られる」などの視点からの説明があるとわかりやすい。建設の現場あるいは保守の現場において精度良く風量測定を行うことはなかなか難しい。今回の成果を各種風量測定法の精度及びそれらの測定法を用いるときの留意事項などの視点で簡単にまとめて、業界誌、協会機関誌などに公表すると良いと思う。

所見 : 言うまでもないことであるが、今回の研究で、課題のすべてが解決されたわけではなく、その糸口を見つけた程度の成果である。しかしこの糸口を見つけるには多くの努力が要る。成果の発表は、口頭発表を中心に多くなされている。最終的には、国内のみならず、Indoor Air などの厳しい査読のあるジャーナルに発表すべきであり、国費を使用した研究の責任でもある。研究開発に投入された研究者の時間、費用に十分見合った成果が得られたものと判断される。

2. 主な所見に対する回答

- ・ 所見 に対する回答：国土技術政策総合研究所や諸団体と協力し、実務者向けのガイドやマニュアルの形で成果を公表してゆく計画であります。
- ・ 所見 に対する回答：セントラル換気空調システムの換気上の利点（新鮮空気を各室均等に配分できること）や環境設計上の要注意点などを民間企業との共同研究成果としての書籍の形で公表しておりますが、引き続き実務者向けに情報提供の機会を見つけ活用したいと思います。
- ・ 所見 に対する回答：ご指摘の通りですので、早急に成果を投稿してゆきたいと考えます。
- ・ 所見 に対する回答：精度向上の程度を定量的に表示することは今回については困難なのが実状です。であれば目的の表現をより正確に行うべきであったと反省しております。今後は、目的の設定及び表現について慎重に行ってゆきたいと思います。風量測定方法に関するガイドラインにつきましては、早急に公表できるように準備を進めたいと考えます。
- ・ 所見 に対する回答：査読付きのジャーナルへの投稿を積極的に行うようにいたします。